

国内の畜産物の需給動向

牛肉

7年12月の牛肉生産量、前年同月比1.9%増

生産量

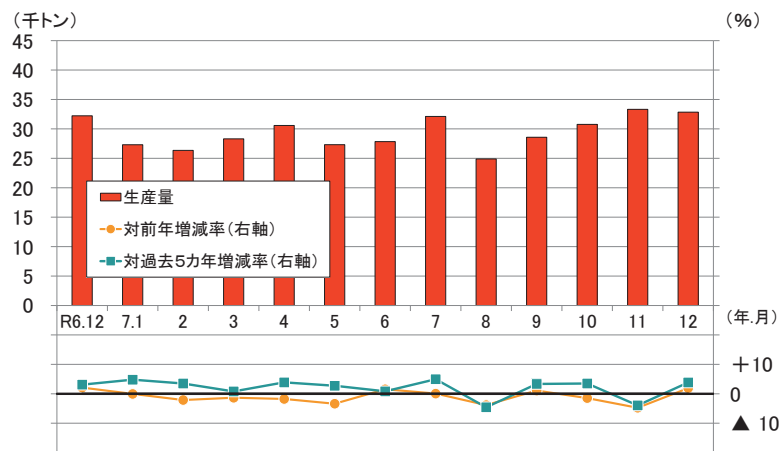
令和7年12月の牛肉生産量^(注1)は、3万2843トン（前年同月比1.9%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万8047トン（同4.6%増）、交雑種は8859トン（同4.4%増）と、ともに前年

同月をやや上回った一方、乳用種は5890トン（同8.4%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

なお、過去5カ年の12月の平均生産量との比較では、3.8%増とやや上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

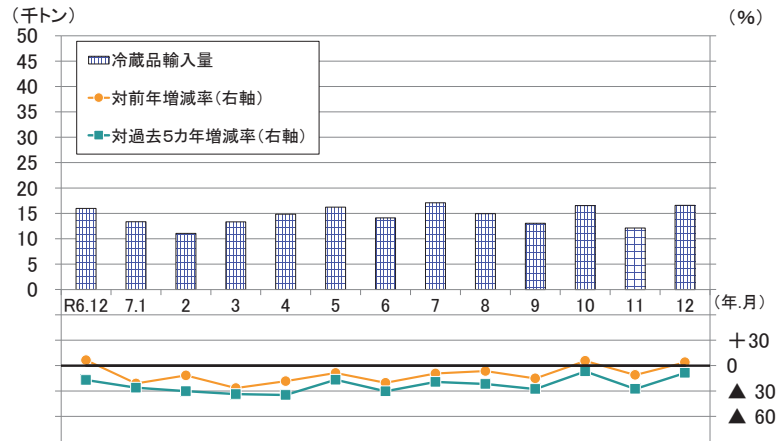
12月の輸入量について、冷蔵品では、現地価格の高止まりなどにより、主要輸入先である米国産の輸入量が減少した一方、豪州産およびカナダ産の輸入量が増加したことなどから、1万6603トン（前年同月比3.9%増）と前年同月をやや上回った（図2）。冷凍品では、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加した

ことなどから、2万6402トン（同13.7%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)でも、4万3015トン（同9.7%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

なお、過去5カ年の12月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は8.6%減とかなりの程度下回った一方、冷凍品は13.1%増とかなり大きく上回る結果となった。

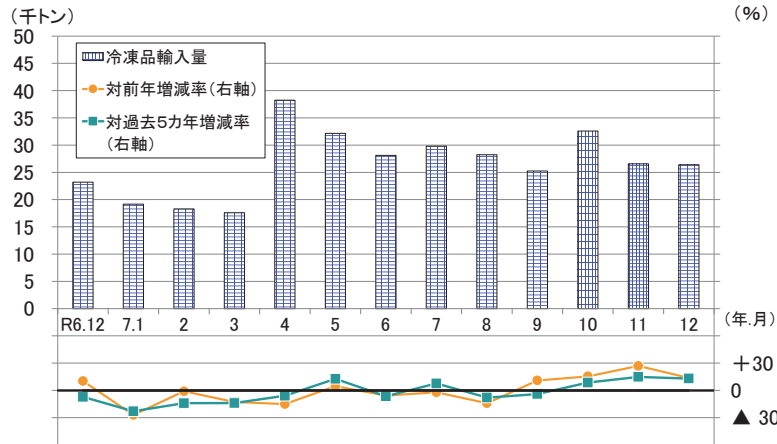
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

12月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は212グラム（前年同月比1.6%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較でも、10.2%減とかなりの程度下回る結果となった。

12月の外食産業全体の売上高は、年末の休みが長い曜日回りとなったことから、年末を中心に家族客などの外食需要が好調だった他、忘年会の主流となった小グループなどの

宴会が月後半から年末の休みにかけて好調で飲酒業態の客数を押し上げたことに加え、インバウンド需要も中国からの団体客の減少が見られたが全体としてはおおむね堅調で、客単価の上昇が続く中、ファストフード業態やファミリーレストランの低価格業態が堅調だったことなどから、前年同月比6.0%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、期間限定商品やクリスマス

前後のチキンなどが好調で、同6.4%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、主要メニューに他商品を付けた期間限定メニューなどが好評で、同8.2%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、年末の休みを中心に客数が増加し、同5.0%増と前年同月をやや上回った。

(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

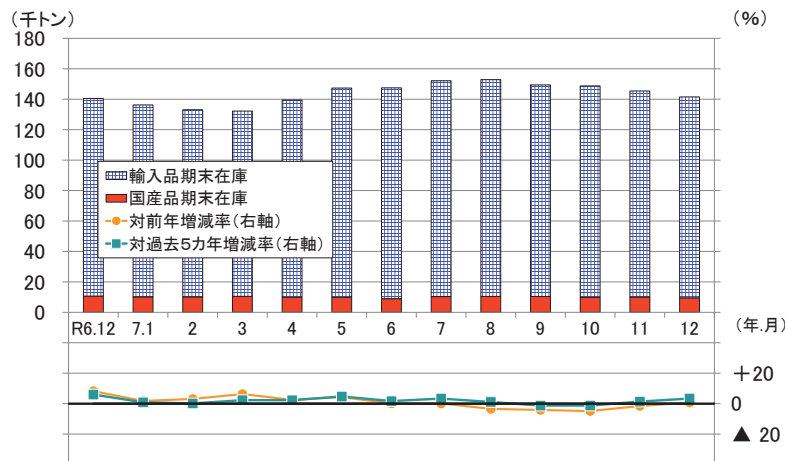
推定期末在庫・推定出回り量

12月の推定期末在庫は、14万1523トン

(前年同月比0.7%増)と前年同月をわずかに上回った(図4)。このうち、国産品は9562トン(同10.6%減)と前年同月をかなりの程度下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は13万1961トン(同1.7%増)と前年同月をわずかに上回った。

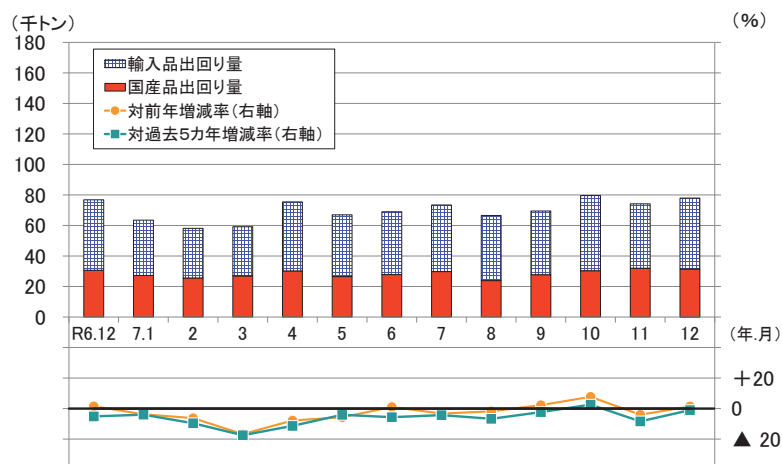
推定出回り量は、7万7945トン(同1.5%増)と前年同月をわずかに上回った(図5)。このうち、国産品は3万1491トン(同2.8%増)、輸入品は4万6453トン(同0.5%増)と、ともに前年同月をわずかに上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

豚 肉

7年12月の豚肉生産量、前年同月比2.5%増

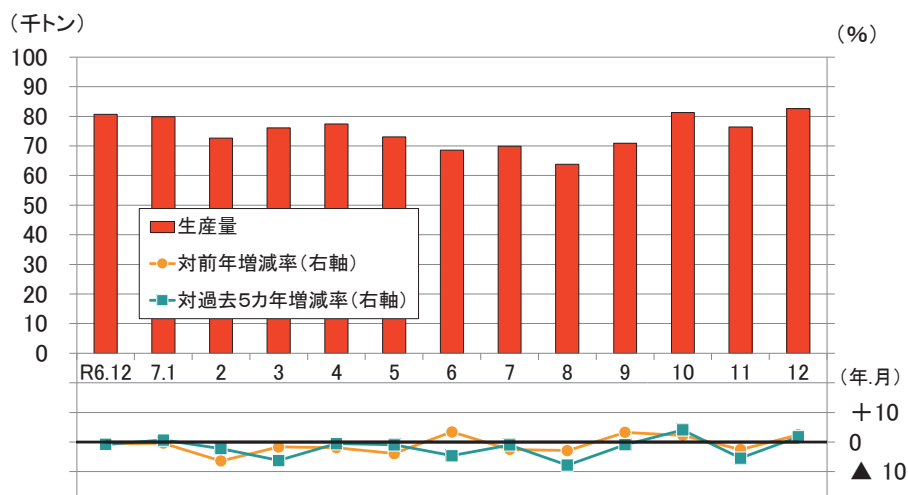
生産量

令和7年12月の豚肉生産量は、8万2651トン（前年同月比2.5%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の12月の平均生産量との比較でも、1.7%増とわずかに上回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

12月の輸入量について、冷蔵品は、現地相場が高水準にあることなどから米国産が減少した一方、価格や規格などで一定の評価を受けるカナダ産や、メキシコ産が増加したことなどを背景に、3万4624トン（前年同月比0.2%増）と前年同月並みとなった（図2）。冷凍品は、現地相場高や為替相場の影響、国内の輸入品在庫が高水準にあったことなどにより、11月に前年同月比で27.9%の減少となった中で、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置^(注1)の影響も加わったものとみられることから、3万3676トン

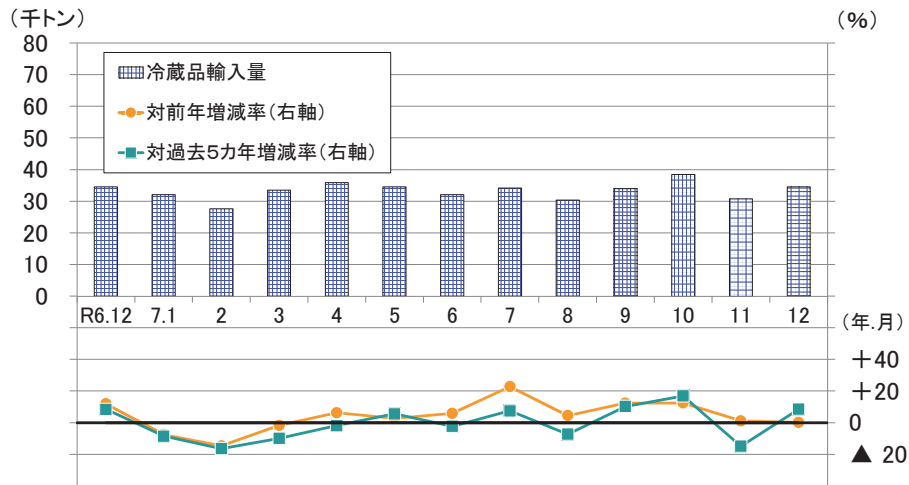
（同19.8%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)では、6万8313トン（同10.7%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

なお、過去5カ年の12月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は8.6%増とかなりの程度上回った一方、冷凍品は15.6%減とかなり大きく下回る結果となった。

（注1）農林水産省は令和7年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管及び輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。

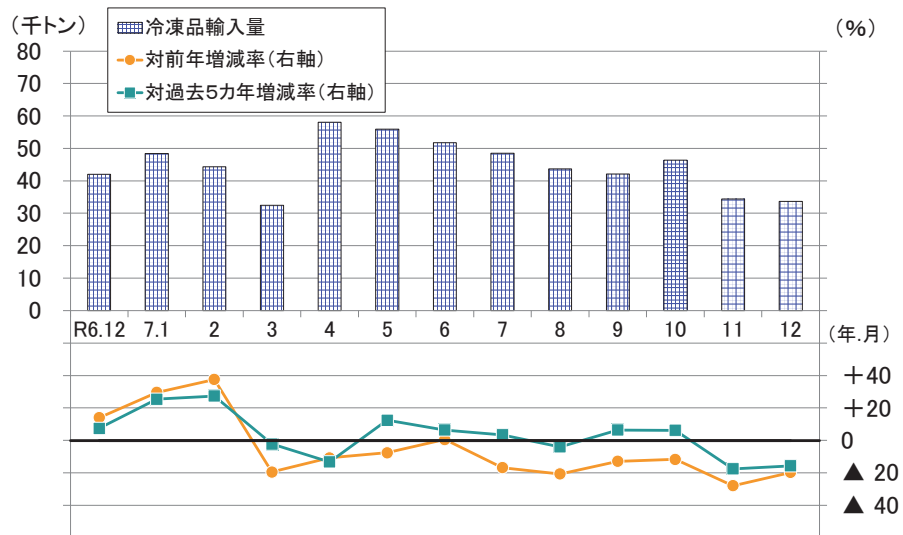
（注2）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

12月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は、682グラム（前年同月比1.4%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較でも、1.5%減とわずかに下回る結果となった。

(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

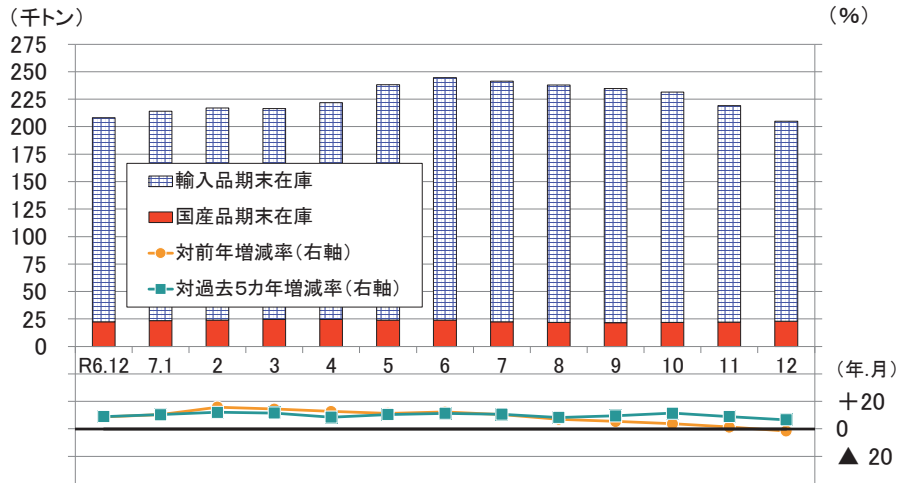
12月の推定期末在庫は、20万4996トン（前年同月比1.5%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は2万2928トン（同2.1%増）と前年同月をわずかに上回った一方、在庫の大半を占める輸入品は、18万2068トン（同2.0%減）と前年同月をわずかに下回った。

推定出回り量は、16万4943トン（同

0.0%減)と前年同月並みとなった(図5)。このうち、国産品は8万1767トン(同3.0%増)と前年同月をやや上回った一方、

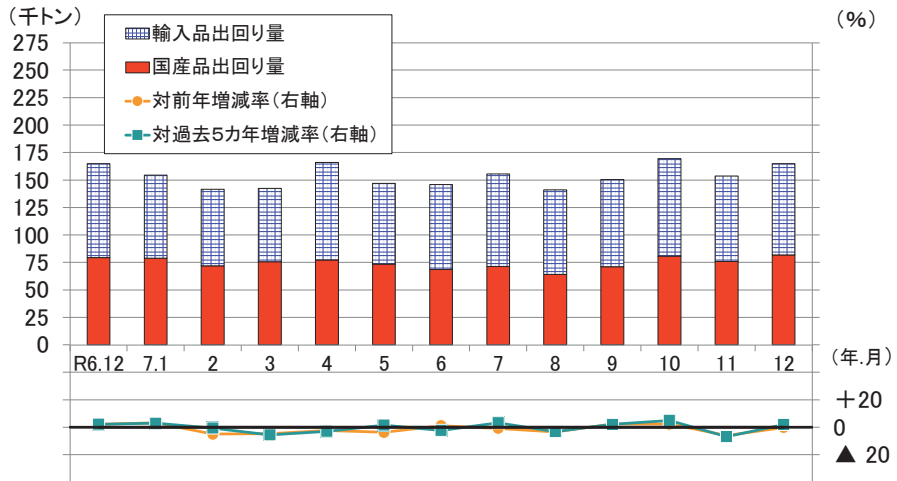
輸入品は8万3176トン(同2.8%減)と前年同月をわずかに下回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部)

鶏肉

7年12月の鶏肉生産量、前年同月比0.9%増

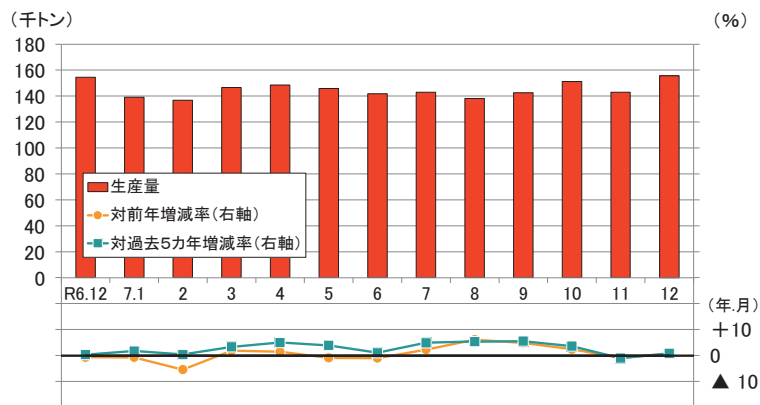
生産量

令和7年12月の鶏肉生産量は、15万5755トン（前年同月比0.9%増）と前年同月

をわずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の12月の平均生産量との比較でも、0.8%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

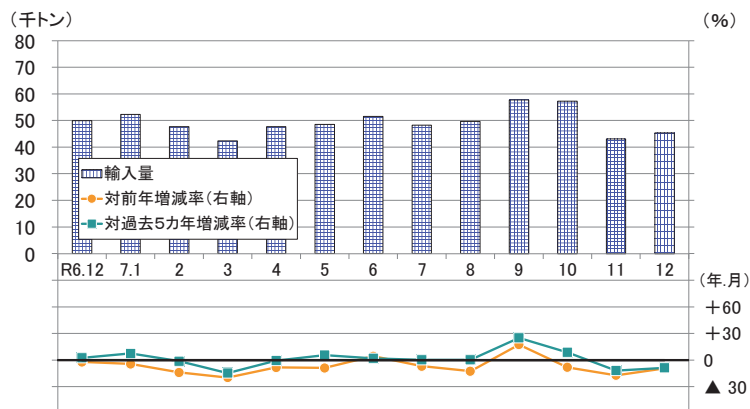
輸入量

12月の輸入量は、主要輸入先での相場高や需要の高まり、減産の持続などにより輸入が低迷し、4万5351トン（前年同月比

9.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。

なお、過去5カ年の12月の平均輸入量との比較でも、8.8%減とかなりの程度下回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

12月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注)は、639グラム（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較でも、3.8%増とやや上回る結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

12月の推定期末在庫は、14万8032トン（前年同月比10.0%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。このうち、輸入品は11万1656トン（同17.3%減）と前年同月を大幅に下回った。

推定出回り量は、20万9911トン（同0.0%減）と前年同月並みとなった（図4）。このうち、国産品は15万4581トン（同0.7%減）と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は5万5330トン（同1.9%増）と前年同月をわずかに上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移

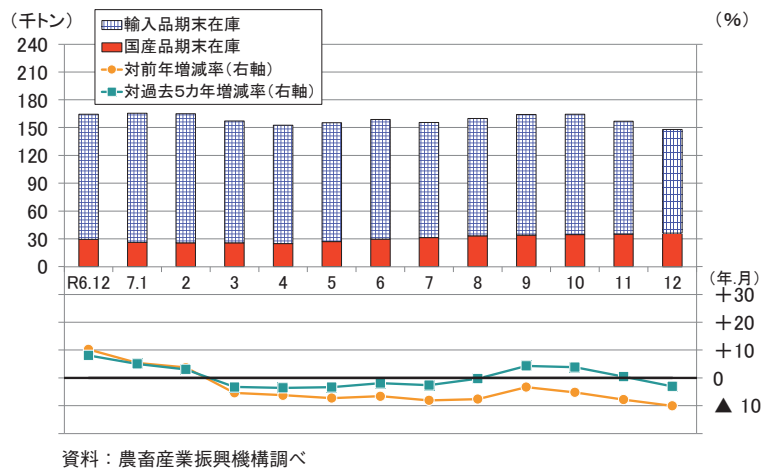
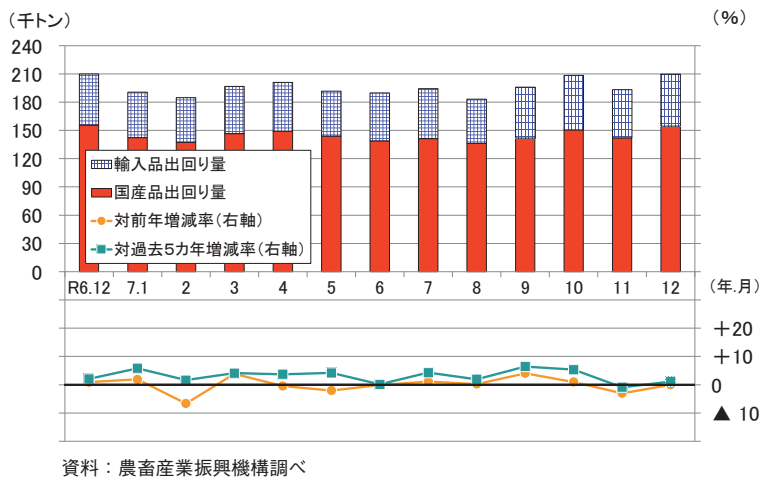


図4 鶏肉出回り量の推移



(畜産振興部)

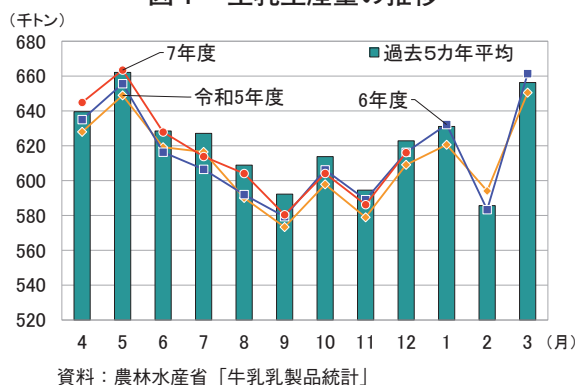
牛乳・乳製品

7年12月の全国の生乳生産量、3カ月連続で下回る

北海道の生乳生産量、12月は3カ月ぶりに前年同月を上回る

令和7年12月の生乳生産量は、61万6047トン（前年同月比0.0%減）と、3カ月連続で前年同月を下回るも同水準にとどまった（図1）。地域別では、北海道が35万7880トン（同0.3%増）と、3カ月ぶりに前年同月を上回った。一方、都府県では25万8167トン（同0.4%減）と、4カ月連続で下回った。

図1 生乳生産量の推移



12月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは30万513トン（同1.1%減）と、5カ月連続で前年同月を下回った。このうち、業務用向けについては2万5084トン（同6.0%減）と7カ月連続で下回った。

一方、乳製品向けは31万1979トン（同1.0%増）と10カ月連続で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは6万581トン（同3.4%減）と2カ月連続で下回った一方で、チーズ向けは4万738トン

（同6.2%増）と4カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは、16万9346トン（同1.9%増）となり、17カ月連続で前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の12月の牛乳生産量、5カ月連続で下回る

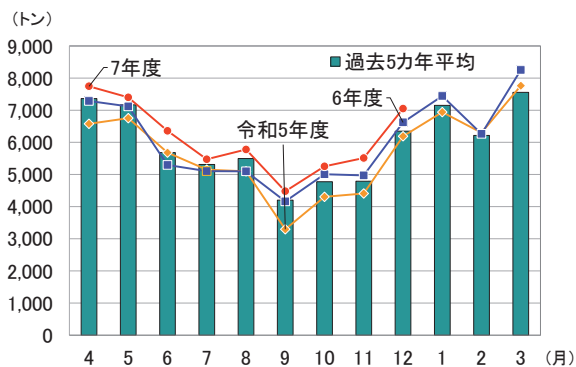
12月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、24万3852キロリットル（前年同月比1.3%減）と5カ月連続で前年同月を下回った。成分調整牛乳は前年割れが継続しており、1万5339キロリットル（同7.1%減）となった。また、加工乳についても、1万3235キロリットル（同7.5%減）と5カ月連続で前年同月を下回った。

はっ酵乳は8万3288キロリットル（同1.2%増）と3カ月ぶりに上回った。

12月末のバター在庫量、前年同期の3割増

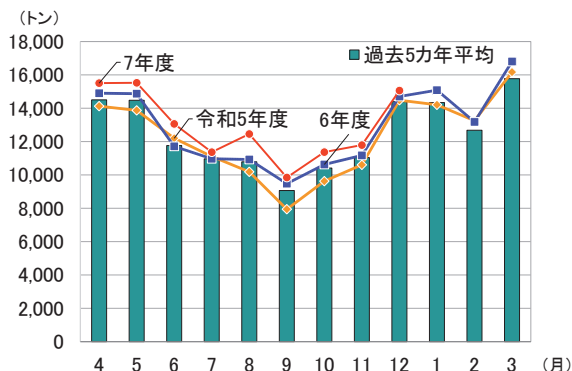
12月のバターの生産量は7050トン（前年同月比6.4%増）と、10カ月連続で前年同月を上回った（図2）。一方、出回り量は9113トン（同1.5%減）と7カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量については、16カ月連続で前年同月を上回り、12月末は2万9156トン（同29.6%増）となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移



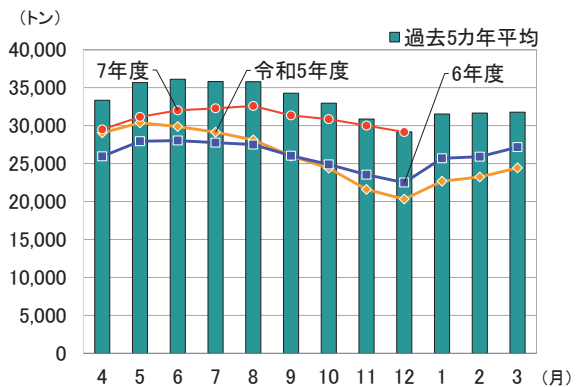
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図4 脱脂粉乳の生産量の推移



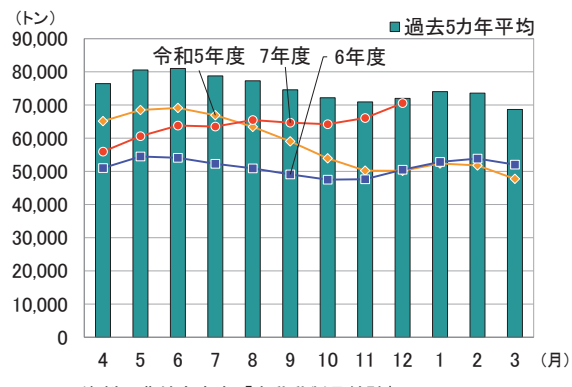
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図3 バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

12月末の脱脂粉乳在庫量、34カ月ぶりの7万トン台

12月の脱脂粉乳の生産量は、1万5059トン（前年同月比2.4%増）と、バターと同様、10カ月連続で前年同月を上回った（図4）。一方、出荷量は1万568トン（同10.7%減）と11カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量は、7万578トン（同39.8%増）と13カ月連続で前年同月を上回り、令和5年2月以来34カ月ぶりでの7万トン台となった。（図5）。

Jミルク、令和8年度の生乳生産量を3年ぶりの減産と見込む

一般社団法人Jミルクは令和8年1月30日、「2025年度・2026年度の生乳および牛乳乳製品の需給見通しと課題について」を公表した（表）。これによると、令和7年度の生乳生産量は738万9000トン（前年度比0.2%増）と、2年連続で前年度を上回る見通しとなった。地域別に見ると、北海道は430万3000トン（同0.9%増）と、2年連続で前年度を上回る一方、都府県では308万6000トン（同0.7%減）と、4年連続で下回ると見込んでいる。

一方、8年度は725万8000トン（同1.8%減）と3年ぶりに減少を見込んでいる。

地域別では、北海道は427万4000トン（同 3.3%減）といずれも前年度を下回る見込み
0.7%減）、都府県でも298万4000トン（同 となっている。

表 生乳生産量の見通し

(単位：千トン、%)

年度	全国		北海道		都府県	
	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)
令和4年度	7,533	▲1.5	4,254	▲1.3	3,279	▲1.7
5年度	7,324	▲2.8	4,175	▲1.9	3,149	▲4.0
6年度	7,373	0.7	4,264	2.1	3,109	▲1.3
7年度 (見通し)	7,389	0.2	4,303	0.9	3,086	▲0.7
8年度 (見通し)	7,258	▲1.8	4,274	▲0.7	2,984	▲3.3

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、一般社団法人Jミルク「2025年度・2026年度の生乳および牛乳乳製品の需給見通しと課題について」（1月30日公表）

注：令和4～6年度は実績値、7～8年度は見通しである。

令和8年度の輸入枠数量が決定

農林水産省は令和8年1月30日、令和8年度の国家貿易による指定乳製品等の輸入枠数量を決定した。これによると、8年度は、世界貿易機関（WTO）において約束している最低数量（カレントアクセス：生乳換算で13万7000トン）にとどめることとした。品目別（製品重量）では、脱脂粉乳は日米貿易協定に基づく750トン以内、ホエイは

WTOの約束に基づく4500トン以内、バターオイルは事業者の要望に基づく140トン以内、残りをバターとして8000～約1万トン割り振ることとした。

当機構は、今回設定された輸入枠数量に基づき、バターは毎月、その他の品目は需給状況に応じて輸入入札を実施する予定である。

(酪農乳業部)

鶏卵

8年1月の鶏卵卸売価格、前年同月比20.2%高

卸売価格

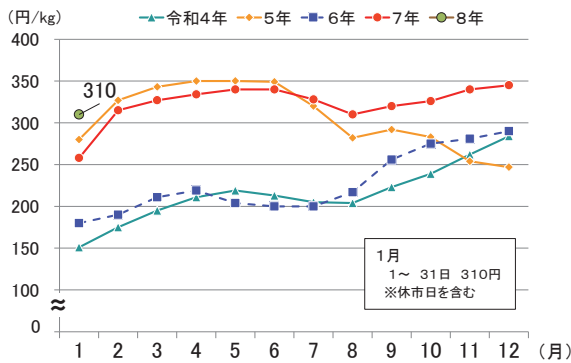
令和8年1月の鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）は、1キログラム当たり310円（前年同月差52円高、前年同月比20.2%高）と、前年同月の同価格を大幅に上回った

(図)。同価格の日ごとの推移を見ると、1カ月を通して同310円となった。なお、過去5カ年の1月の平均卸売価格は202円であり、それと比較しても、53.5%高と大幅に上回る結果となった。

供給面については、全国的な高病原性鳥

インフルエンザ（HPAI）の発生などにより低位で推移している。需要面については、年末の需要期明けであることや、HPAIを警戒した販促控えによる需要減がなかったことから、落ち着いて推移した。

図 鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

家計消費量

12月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）^(注)は、949グラム（前年同月比2.2%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較でも、1.5%減とわずかに下回る結果となった。

(注) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

(畜産振興部)

令和7年の畜産物の輸出動向について

令和7年の農林水産物・食品の輸出については、農林水産省「2025年の農林水産物・食品の輸出実績」によると、主要輸出先国・地域のすべてで前年比でプラスを記録した結果、1兆7005億円（前年比12.8%増）と、

13年連続で過去最高を更新し、そのうち畜産物は、1172億5300万円（同9.2%増）となった。本稿では、令和7年における畜種別の輸出動向について、財務省「貿易統計」を基に紹介する。

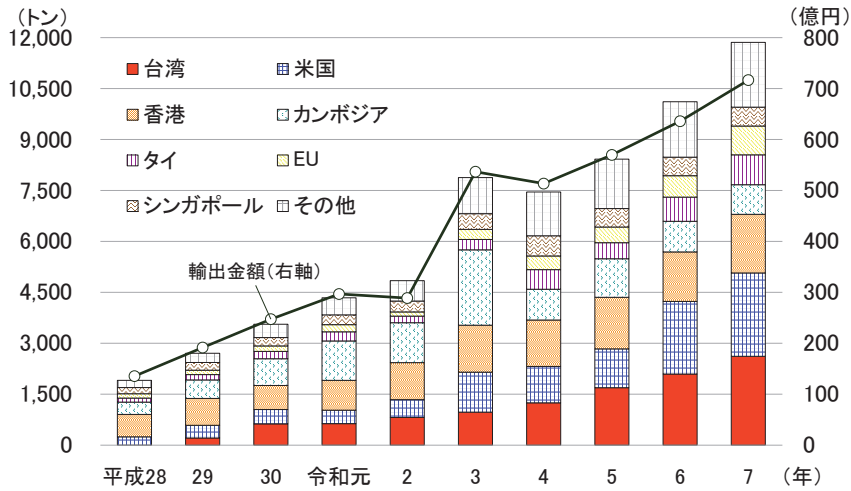
【牛肉】牛肉輸出量、前年比17.3%増

令和7年の牛肉輸出量（牛くず肉を除く。以下同じ）は、1万1860トン（前年比17.3%増）と大幅に増加し、過去最高となった（図1）。輸出先は、前年から1カ国・地域増加し、52カ国・地域となっており、国・地域別のシェアを見ると、台湾向けが2617トン（同25.0%増）で22.1%と、前年にトップ

だった米国を上回った。次いで米国向けが2452トン（同14.7%増）で20.7%、香港向けが1727トン（同18.5%増）で14.6%となった。

輸出金額は、716億5626万円（同12.7%増）と前年からかなり大きく増加し、輸出量同様に過去最高となった。

図1 牛肉輸出量・輸出金額の推移

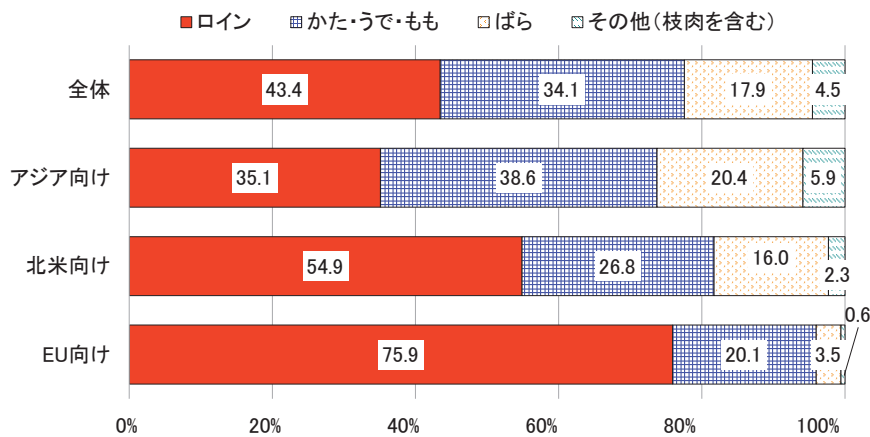


資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号 (0201、0202)。

また、牛肉輸出量の部位別割合を見ると、全体に占める「ロイン」の割合が43.4%と最も高く、次いで「かた・うで・もも」が34.1%、「ばら」が17.9%となった(図2)。なお、EU向け、北米向けはサーロインなど

の「ロイン」の輸出がそれぞれ75.9%、54.9%と最多を占める一方、アジア向けは「かた・うで・もも」が38.6%と最多を占めた。

図2 牛肉輸出量の部位別割合 (令和7年)

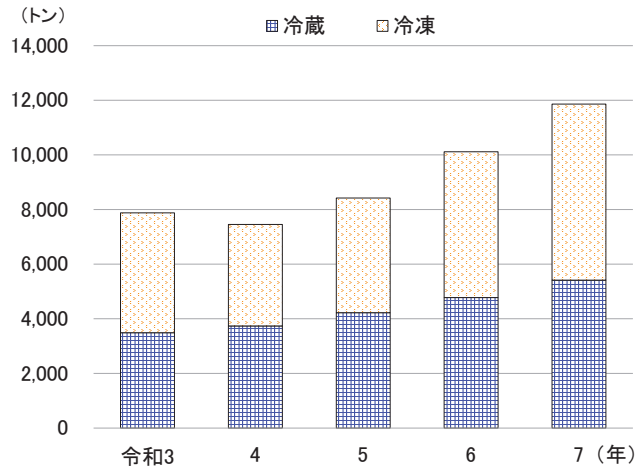


資料：財務省「貿易統計」
注1：統計品目番号 (0201、0202)。
注2：端数処理の関係から内訳の合計が100%にならない場合がある。

冷蔵・冷凍別の牛肉輸出量を見ると、冷蔵は5416トン(同13.4%増)とかなり大きく、冷凍は6444トン(同20.8%増)と大幅に、いずれも前年を上回った(図3)。全体に

占める「冷蔵」と「冷凍」の割合はそれぞれ46%、54%となり、前年から冷蔵は1ポイント減少、冷凍は1ポイント増加となった。

図3 冷蔵・冷凍別の牛肉輸出量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号（0201、0202）。

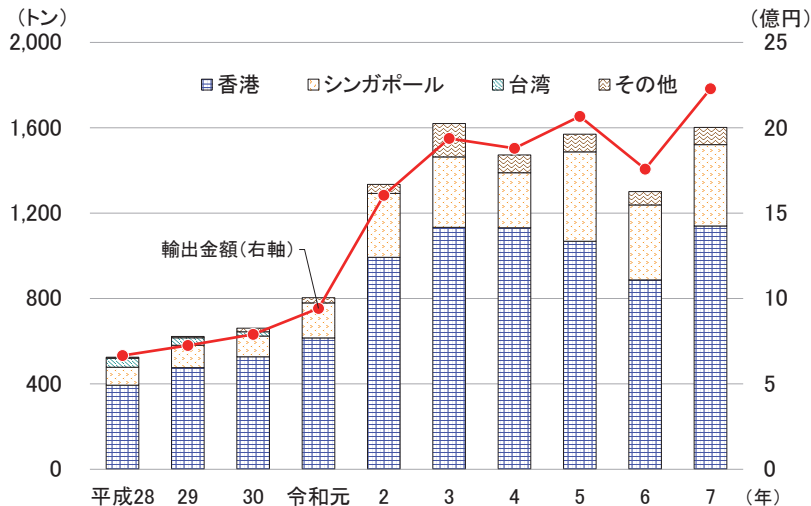
【豚肉】 豚肉輸出量、前年比23.1%増

令和7年の豚肉輸出量（豚くず肉を除く。以下同じ）は、1601トン（前年比23.1%増）と前年から大幅に増加した（図4）。輸出先は、前年と同数の8カ国・地域となっており、国・地域別のシェアを見ると、香港向けが1140

トン（同28.5%増）で71.2%と最も多く、次いでシンガポール向けが381トン（同8.4%増）で23.8%となった。

輸出金額は、22億2878万円（同26.8%増）と前年から大幅に増加した。

図4 豚肉輸出量・輸出金額の推移



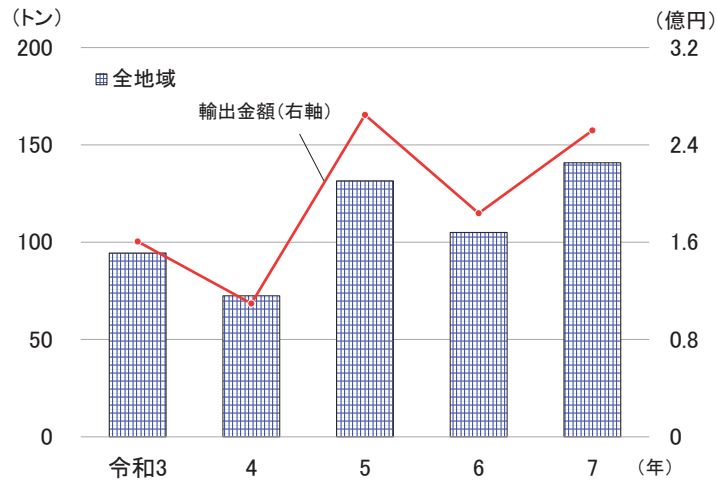
資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号（0203）。

また、ソーセージやハムなどを含む豚肉加工品（豚肉調製品（ゆでた豚足など）を除く。以下同じ）の輸出量は141トン（同34.1%増

と前年から大幅に増加した（図5）。

輸出金額は、2億5190万円（同37.0%増）と前年から大幅に増加した。

図5 豚肉加工品輸出货量・輸出金額の推移（豚肉調製品を除く）



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号（021011、021012、021019、1601、160241、160242）。

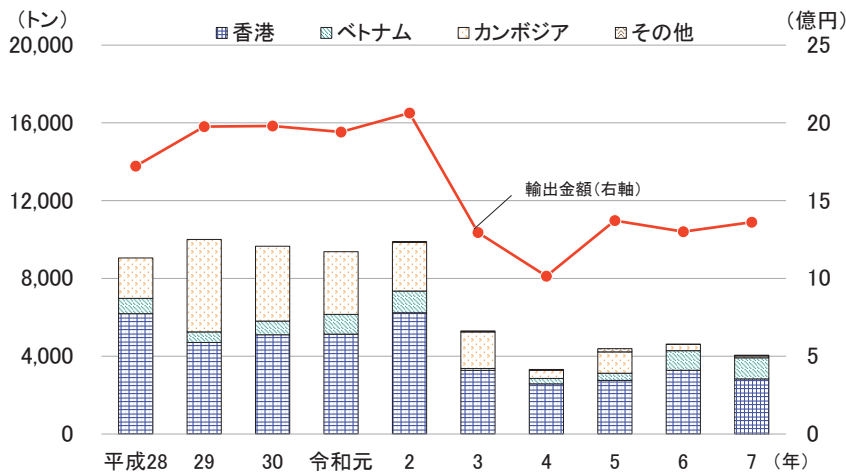
【鶏肉】 鶏肉輸出货量、前年比12.4%減

令和7年の鶏肉輸出货量は、4050トン（前年比12.4%減）と前年からかなり大きく減少した（図6）。輸出先は、前年から1カ国・地域増加し、6カ国・地域となっており、国・地域別のシェアを見ると、香港向けが2831

トン（同13.6%減）で69.9%と最も多く、次いでベトナム向けが1088トン（同8.2%増）で26.9%となった。

輸出金額は、13億6159万円（同4.7%増）と前年からやや増加した。

図6 鶏肉輸出货量・輸出金額の推移



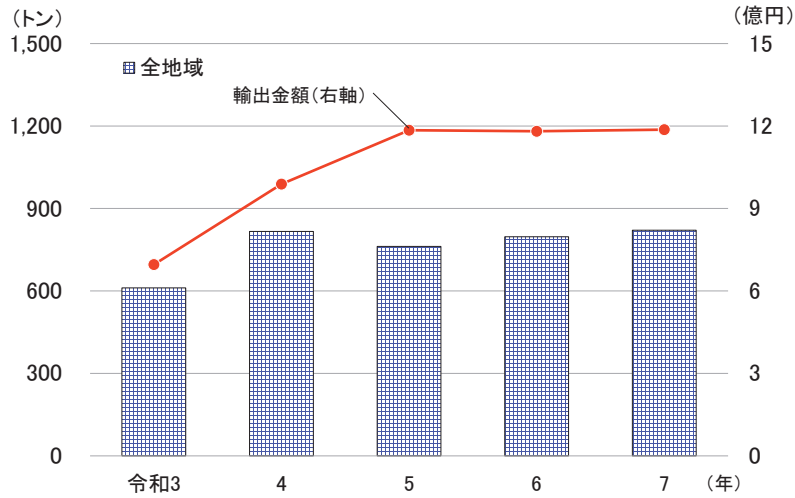
資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号（0207）。

から揚げやサラダチキンといった鶏肉加工品の輸出货量は、821トン（同3.0%増）と前年からやや増加した（図7）。国・地域別のシェアを見ると、香港向けが758トン（同0.5%

減）で92.3%とほとんどを占めた。

輸出金額は、11億8690万円（同0.5%増）と前年からわずかに増加した。

図7 鶏肉加工品輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：統計品目番号（160232）。

【牛乳・乳製品】牛乳・乳製品輸出金額、前年比0.2%減

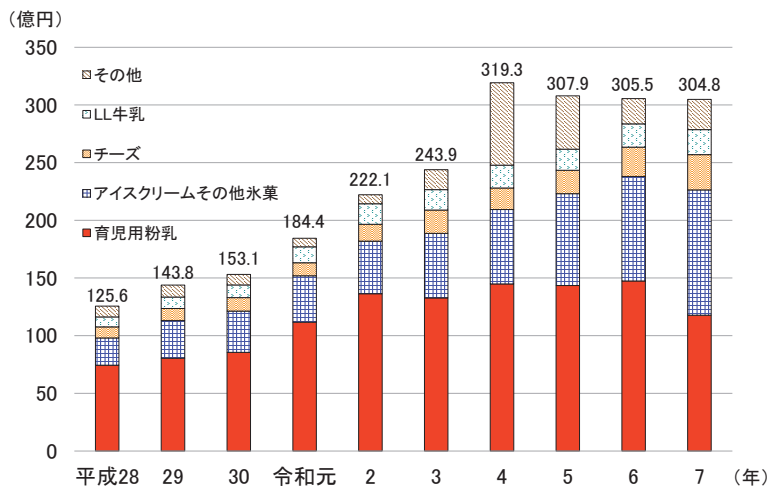
令和7年の牛乳・乳製品の輸出金額は、304億8240万円（前年比0.2%減）と3年連続で前年を下回った（図8）。

品目別に見ると、最も輸出金額の多い「育児用粉乳」が117億7538万円（同20.1%減）と、前年を大幅に下回り、牛乳・乳製品全体の金額を押し下げた。これは、この品目の

最大の輸出先であるベトナム向けが安全規制の強化に伴い、輸出量ベースで同34.9%減、輸出金額ベースで同38.8%減と大幅に減少したことによる。

一方、次いで、輸出金額の多い「アイスクリームその他氷菓」が108億5712万円（同19.9%増）、「チーズ」が30億6070万円（同

図8 牛乳・乳製品の輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」
注1：輸出金額は、牛乳・乳製品の合計。
注2：統計品目番号は、0401～0406、1901.10-000、2105.00-000、3501。

20.2%増)、「LL牛乳」が21億6729万円(同7.5%増)、「その他」が26億2190万円(同19.9%増)と、いずれも前年を上回った。

各品目の輸出先は、金額の多い順に、「育児用粉乳」がベトナム、台湾、カンボジア、

「アイスクリームその他氷菓」は台湾、香港、米国、「チーズ」は台湾、ベトナム、香港、「LL牛乳」は香港、シンガポール、台湾、「その他」は豪州、香港、台湾となった。

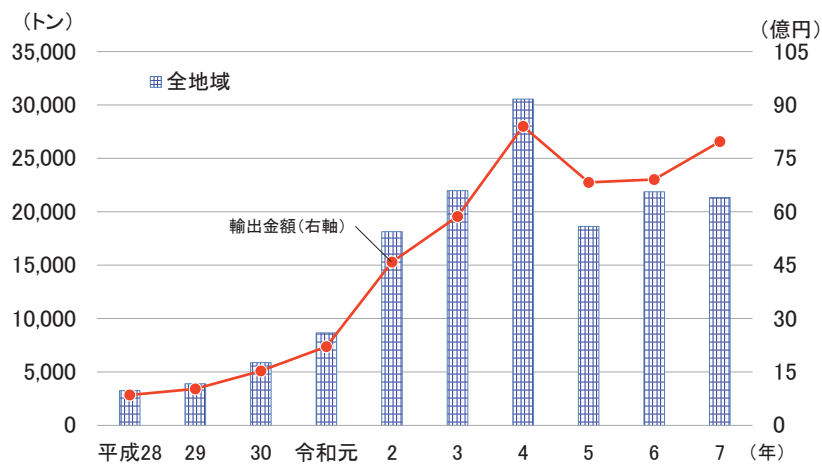
【鶏卵】 鶏卵輸出量、前年比2.5%減

令和7年の鶏卵(殻付き卵)の輸出量は2万1324トン(前年比2.5%減)と前年からわずかに減少した(図9)。国・地域別のシェアを見ると、香港向けが2万799トン(同

3.0%減)で97.5%とほとんどを占めた。

輸出金額は、79億7013万円(同15.4%増)と前年からかなり大きく増加した。

図9 鶏卵(殻付き卵) 輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：数値は殻付き卵(食用)。

注2：統計品目番号(040721、040729、040790)。

(食肉・鶏卵：畜産振興部)

(牛乳・乳製品：酪農乳業部)